

2023年度  
学校法人梅花学園 事業計画書

2023年3月25日

## 梅花学園の建学の精神

キリスト教精神に基づき、他者への愛と

奉仕の精神を備える自立した女性を育成する

## 教学の理念

梅花学園は、キリスト教精神に基づき、人間として自分の生きる道を見出してその道を歩む力を身につけると共に、多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ人を育てる。さらにのびやかな感性を養い、調和のとれた知性をもって社会に適応すると共に社会に貢献する人が育つように努める

## スクール・モットー

人にしてもらいたいと思うことは何でも、  
あなたがたも人にしなさい。

(マタイによる福音書七章十二節)

## 2023年度 学校法人梅花学園 事業計画

### I. 学園の基本方針

建学の理念であるキリスト教精神に基づく人間教育を実践し、小規模な女子学園の特色を生かして以下に掲げる使命を果たす。

1. 各設置学校において、教育の特色を明確に打ち出し、育成する人材像を社会に明示し、その約束を果たす。さらに、教育内容と学生・生徒・園児への各種支援・サービスを充実させ、満足度の向上を図る。
2. 総合学園であるメリットを生かして、学園内の学校間における教育連携事業を推進する。
3. 教職員に対し就業規則に基づくコンプライアンス教育を徹底し、教育機関に相応しいガバナンスを示す。また、学内の情報共有の徹底を通して組織間連携を向上させ、ガバナンスの強化を図る。
4. 各設置学校においては教育活動における事業活動収支の均衡をめざしつつ、中・長期的視野に立ち、大学・中学校・高等学校・幼稚園とも独立採算を見据えた予算編成の上で、学園全体の総合経営により法人全体として財務体質の強化を図る。また、各部門において経費の削減に努め、学生・生徒等の安定的確保を通して、経常収支における均衡を図り、長期的な財政見通しの中で施設設備の維持・保全に必要な資金を着実に確保する。
5. 危機管理と情報管理を適正に行い、併せて外部の情報を積極的に収集し、これに基づき時代の要請に対応した戦略に基づく経営を推進する。
6. 学内外に対し情報の公表を行い、教学および経営の説明責任を果たす。

### II. 学園改革への取組み

昨今の学校教育を取り巻く環境において、英語教育をはじめとしたグローバル教育の推進、高大接続における入試改革、さらには幼児教育並びに高等教育の無償化など、国主導の教育改革が進められるなか、本学園においてもこれに対応すべく、各学校において改革を進めている。

2023年度においては、本学園の現行の体制を維持しつつ、社会から求められる人材を輩出する学校をめざして、さまざまな観点から工夫し不断の改革に取り組むこととする。そして、この改革により、学園全体のブランド力を向上させ、社会的評価を得ることに努める。

1. 各設置学校は文部科学省が進める教育改革に対応し、教育内容の見直しと充実を図り、それぞれの教育目標に定める人材養成に沿った教育を推進する。
2. 安定した財政基盤を確立するために、入学者の確保と収容定員の充足に努める。このため、各設置学校においては各種行事・イベント・学校間連携・産官学連携等を通じて募集活動を強化する。
3. 高校・大学の教育と連携した「梅花歌劇団（劇団この花）」の諸活動・公演等を通して教育的展開を図り、学園全体の知名度とブランド力を高める。

### Ⅲ. 事業計画の概要

#### 1. 教学充実、学生・生徒・園児支援の取組み

##### (1) 大学

学園の基本方針に基づき、学生の立場に立つ教育、学生一人ひとりを深く理解し、向学心を引き出すオーダーメイド教育を通して、教育目標「チャレンジ&エレガンス」を確実に実現する大学をめざす。

##### ① 建学の精神の浸透

- 1) 建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成をめざすため、学生および教職員に対し、礼拝（チャペル・アワー）への積極的参加を促す。
- 2) 教職員対象の研修会を開催し、建学の精神の理解を深める。
- 3) 建学の精神に基づき、学生一人ひとりに常に寄り添い、十分なコミュニケーションを通して丁寧な指導を実践し、日本一学生に親切的な大学をめざす。

##### ② 教育・研究の充実

- 1) 教育目標を実現する真の教育力をもつ大学をめざすため、教育の改革・改善に関する取り組みを全教員に促し、教育上の優れた取り組みに対して経費補助を行う。
- 2) 教員の研究活動の活性化を図るため、外部の各種研究助成の案内をして積極的な研究活動を促すとともに、優れた個人研究およびプロジェクト研究に対して助成金を交付する。
- 3) 授業実践報告会や学生による授業アンケートなどを通して、個々の教員の教育改善および教育力の向上を図る。
- 4) 2024年度に向け、各学科の学びの仕組みを大幅に変更する。変更の要点は、本学の建学の精神に基づく「仕事力ある真におしゃれな女性」の育成をめざすことを目的とし、学科の学びを強化するため、教養科目・主専攻科目・副専攻科目の「学びの一元化」を行う。
- 5) 学生の英語力の向上に向けて、「英語会話Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の授業とGCVとの連携を図り、すべての学生が英検（英語実用技能検定）の資格取得をめざすように事後学習指導を行う。

##### ③ GCV（グローバル・コミュニケーション・ヴィレッジ）の活用促進

- 1) すべての学生を対象に、GCVを英語および他の外国語の実践練習が気軽にできるスペースにする。特に、1年次生対象科目「初年次セミナーⅠ」の中でGCV訪問の機会を設けて、ヴィレッジの紹介および活用を勧める。
- 2) 留学経験者や海外研修を終えた学生たちとの交流やWebによる外国人学生との交流を図る場を提供する。また、異文化に触れるさまざまな催しを企画して、ヴィレッジプログラムの充実を図る。
- 3) 海外からの訪問者を積極的にヴィレッジに招聘し、本学学生との交流の場を提供する。

##### ④ 産官学の連携

- 1) 学生たちの向学心を引き出し、社会で活躍できる力を伸ばすため、全学生に産官学の連携を積極的に推進する。

2) グランフロント大阪ナレッジキャピタル「The Lab.」を学生の学びを公開する場、教員の研究活動の場、さらには企業との連携およびイベントの拠点として活用する。

⑤ 梅花歌劇団「劇団この花」

本学の学問と融合した文舞両道をめざす全国的にも類をみない「劇団この花」は、エレガントな生き様を描くオリジナルミュージカルの公演、さらには社会福祉施設や各種イベント活動においても公演を実施し、心身ともにエレガントな女性の育成をめざす。卒業生にはプロの舞台人を輩出している。

⑥ 学生支援

- 1) 出席管理システムやクラスアドバイザー制度などを活用して、学生に寄り添うきめ細かな学生指導を行い、学生の成長を促すとともに、新たに定めた「離学防止策」に基づき離学者を未然に防ぎ、離学0をめざす。特に、新入生に対しては、入学直後および定期的に学科単位で新入生全員の面談を行うとともに、学生カルテを作成して一人一人の状況を把握し、それに応じた丁寧なサポートを行う。
- 2) 学長キャンパスミーティングを開催し、学生からの意見・要望を聞き取り、教育環境・学生生活環境の改善に役立てる。
- 3) 1年次生および3年次生を対象にアセスメントテスト（「GPS-Academic」）を行い、その結果を分析することにより、教育改革並びに学生支援に役立てる。
- 4) 卒業後の就職対策として、各種の国家試験および教員採用試験等の対策講座を実施する。また、MOS試験、日本語検定、TOEIC Listening & Reading IPテストなどの資格取得支援(受検料の補助)を実施する。

⑦ エレガントな女性の育成のために

1) マナー教育

エレガントな女性の育成に向けて、その手引書となる『梅花マナーブック』（改訂版）を基にマナー教育に取り組む。

2) 美しい日本語教育

共通教育科目の必修科目「美しい日本語（話し方）・（書き方）」を通して学生の言葉の素養を引き上げる。また、挨拶の励行やTPOに応じた正しい言葉遣いの実践に取り組む。

⑧ 大学機関別認証評価

2023年度は法定による第三者認証評価を受ける年度であるため、6月に自己点検評価書およびエビデンス集（データ編と資料編）を日本高等教育評価機構に提出し、11月の実地調査に向けて準備する。

⑨ 学部・学科の取り組み

文化表現学部

<情報メディア学科>

- 1) 大学・学科の広報活動および実践的教育の場として、ゼミ主導による各種企業とのコラボ企画や学外コンペへの参加を推進する。
- 2) 各種企業へのインターンシップ、病院等における医療事務研修にも積極的に取り組む。
- 3) 学修成果発表の機会として、「3年次ゼミ活動報告会」や「年度末成果発表会」を開催

する。

#### <日本文化学科>

- 1) 日本の歴史や文化に関する体験学習を通して、学生同士の親睦や教員との信頼関係を深める新入生対象の「京都研修」(1泊2日)を行う。
- 2) 2年次前期「問題発見・解決セミナーⅡ」の授業内で、大阪青年会議所との産学連携事業を行う。
- 3) 国内旅程管理主任者資格取得のための「国内旅程管理研修(東北文化歴史研修)」を行う。
- 4) 4年間の書道学習の集大成として、成果を学内外に示す「卒業書作展」を開催する。
- 5) 日本文化学会主催の「春季講演会」、「歴史・文学旅行」、「秋季講演会」を行う。

#### <国際英語学科>

- 1) 2年次後期からの海外実習・留学に向けて「TOEFL-ITP」(年4回)の受験および卒業後の進路選択を視野に入れた「TOEIC-IP」(年2回)の受験を推進する。
- 2) 1、2年次生対象として、総合旅程管理主任者資格取得のための海外研修(ハワイ)を実施する。
- 3) 上級秘書士(国際秘書)の資格取得をめざす科目を設置し、キャリアデザインの幅を広げるとともに、外部講師によるロールモデルを示す機会を設ける。
- 4) 国際ビューティスペシャリストコースにおけるメイクアップ技術検定の資格取得を推進する。また、学生の意識向上のため、国内最先端の資生堂大阪茨木工場の見学を行う。
- 5) 水都大阪(大阪商工会議所他)コンソーシアムに参画し、大阪府・市の関連プロジェクトに貢献する。
- 6) 電気事業連合会と連携し、2025年に行われる大阪・関西万博に向け、大阪・関西万博推進室が抱えている問題のうちSDGs・ダイバーシティ、若年層をターゲットとしたSNSを利用した広報戦略について、学生ならではの解決策を提案し、社会貢献する。

#### 心理こども学部

##### <こども教育学科>

- 1) 保育士資格、幼稚園・小学校教諭一種免許、およびこれらに付加価値を加える各種資格取得に向けて、学生一人一人のニーズに応じた指導を行うとともに、実習指導、就職支援および採用試験対策(チャレンジ講座等)に取り組む。
- 2) 学生が主体となって各種イベントに参加し、子どもたちを対象にした絵本読み聞かせ、造形遊び、音遊び等行う。また、こども学会主催のイベントを開催する。
- 3) 知育玩具、こどもの健康安全に係る内容について、企業とのコラボを推進し、新商品の開発等を行う実践的で共同的な学びに取り組む。
- 4) 子どもに関する学びを深め、学生・教師間の親睦を図る「こども学海外研修」「フィールドワーク」を実施する。
- 5) 卒業制作の絵本展を開催する。
- 6) 各種実習の充実を図るため、実習先との連携を深めるための実習懇談会を開催する。
- 7) 茨木市保育士等キャリアアップ研修への講師派遣など官学連携企画に取り組む。
- 8) 学科創設記念事業(シンポジウム・ホームカミングパーティー)を開催する。

##### <心理学科>

- 1) 基礎学力の向上とキャリアに対する動機づけを目的に、全学年に対してGoogleフォームによるプルミエプログラムを実施する。
- 2) 犬・イルカ・馬・ゾウを介して行うアニマルセラピー実習を行う。

- 3) 専門機関と連携して、学外施設へのセラピー訪問活動や実習、研修の場の開拓訪問活動を行う。
- 4) 特別支援教育講座に音楽療育を加え、教育内容の充実を図る。
- 5) 企業との教育連携を継続して実施し、その成果を発表会又は大学ホームページで紹介する。
- 6) 3 年次生によるゼミ活動報告会や 4 年次生による卒論公聴会を開催し、低学年の学生のゼミ活動に対する意識を高める。
- 7) 大学院では、臨床心理士養成と並行して公認心理師カリキュラムを実施し、実習内容と実習時間の管理体制の充実を図る。

## 食文化学部

### <食文化学科>

- 1) 調理師としての技術習得のため、授業時間外においても実習指導に取り組む。
- 2) 調理科学分野における実験の構築および基礎的知識の向上をめざす。
- 3) 製菓分野における学びを拡充させるため、関連設備の整備を進め、細工菓子などより充実した製菓関連実習を提供できるようにする。
- 4) 多様な食の歴史や文化を学ぶために「学外研修」および「学会講演会」を開催する。
- 5) 食育・食ビジネスに係る内容について企業とのコラボを推進し、新商品の開発・販売を行い、この実践的な学びを通して学生の総合力を高める。
- 6) 学科の学びの一部を社会に公開し、公募事業（高校生向け食文化分野コンテスト）を実施する。

### <管理栄養学科>

- 1) 国試対策講座を充実させることにより、管理栄養士国家試験合格率 100%をめざす。
- 2) 新入生には、オリエンテーション、初年次セミナー、各授業等で、管理栄養士資格取得の意識を高める。
- 3) 問題発見・解決セミナーなどを通じて産学連携企画に取り組む。
- 4) 臨地実習報告会、卒業研究発表会を開催し、低学年にも公開して臨地実習やゼミ活動に対する意識を高める。
- 5) 離学対策として、低学年に対してクラス間の交流や、教員・助手、上級生との交流の機会を増やし、学生主導のイベント活動などを企画する。

## 看護保健学部

### <看護学科>

- 1) 保健師・看護師国家試験の 100%合格をめざし、1 年次から各学年に国家試験対策講座を行う（継続）。
- 2) 地域住民・関係者・学生を対象に公開講演会を開催する。
- 3) 就職説明会の開催やインターンシップへの参加勧奨により、学生と職場のミスマッチを防ぐ。
- 4) 実習指導者会を開催し、実習施設との連携強化を図る。
- 5) 交流会（ホームカミングデイ）を開催し、看護学科卒業生と在学生の交流を図る。
- 6) 日本看護学教育評価機構が実施する評価員研修の受講等により、他大学の情報収集を図り、受審準備について検討する。

### <口腔保健学科>

- 1) 歯科衛生士の資格取得に向け、国家試験対策講座と補講・支援を強化する。
- 2) 教職課程選択者には養護教諭一種免許状の取得に向け指導・支援する。
- 3) 歯科関連の健康イベントへの参加や地域貢献活動など、人と社会を知るフィールド体験を推進する。
- 4) 学科と専攻科の合同企画で学会を主催し、学生、大学院生さらには既卒者と保護者を交え、学びと研究の成果ならびに卒業生の活躍状況等に関する「公開シンポジウム」を開催する。
- 5) 保護者会を実施する。
- 6) 実習指導者会議（学外の臨床臨地実習指導担当者）を開催する。

## (2) 中学校・高等学校

建学の精神に基づく教育活動を通じて、コミュニケーション能力を高め、円滑な人間関係を構築し、真に社会貢献のできる、人間性豊かな自立した女性の育成をめざす。そのために、全教職員が建学の精神を共有し、「愛なる女学校」ならびに「チャレンジ&エレガンス」をテーマとして、日々の教育活動に活かすことをめざす。

また、コロナ禍においても、生徒・保護者の満足度を向上させることを目標に、新型コロナウイルス感染防止に最大限注意し、従前の取り組みを見直し、新たな方法での実施を図る。やむを得ず行事を中止する場合においても、代替のプログラムの実施をめざす。

全ての部・専攻において目標設定と振り返りの機会を設ける。(PDCA サイクルの実践)

### ① 学力向上への取り組み

- ・教育ソフト（スタディサプリ）を導入し iPad（中学および高校国際教育専攻）、クロムブック（高校国際教養専攻を除く専攻）を利用することにより生徒の学力に応じた指導を行う。
- ・大学進学に向けて実力テストを実施し、その結果は内部推薦や指定校推薦の判定材料としても利用する。
- ・大手進学塾「河合塾」との連携  
長期休暇中に実施する受験講座を大手進学塾に委託し、進路実績の向上をめざす。
- ・中学において英語、数学を習熟度別のクラス編成を行う。

### ② 英語教育の充実への取り組み

- ・外部派遣のネイティブ講師や留学生とのアクティビティーおよびディベートの研修（English Communication Day）を国際教養専攻以外のリベラルアーツコースにおいて実施する。
- ・実用英語検定（英検）を中学生・高校生全員受験とし、中学卒業時に 3 級、高校卒業時に特進 S 専攻・国際教養専攻は 2 級、他の専攻は準 2 級の全員取得をめざす。
- ・ECC と連携し希望者に英検対策講座、夏期・冬期集中英会話レッスンを実施することで英語の 4 技能運用能力強化をめざす。
- ・English Only Space を活用することで、さらなる英語力の向上をめざす。
- ・高校国際教養専攻の学期留学はニュージーランドで実施する。また、希望者に対して実



- 施する夏期海外英語体験学習は、オーストラリア・タウンズヴィルで実施する。
- 同窓会の創設するグローバル人材育成プロジェクトにより最大 4 名の中学 3 年生の生徒を選出し国際教養専攻の学期留学プログラムに参加させる。
  - イングリッシュシャワーとして中庭で BBC ニュースを放送し、また、食堂に設置した 80 インチテレビに常時 CNNj のニュースを放映することで、常に英語を耳にする機会を作りリスニング力のさらなる向上をめざす。
  - 中学 1 年生は、外国人講師による「英語による体験授業」を実施する。
  - 中学 2 年生は、福島県にある British Hills で実施してきた英語宿泊研修を和歌山県和歌山市で実施することで、外国人講師のレッスンをより多く効果的に受講できるようにする。
  - 中学 3 年生の修学旅行は九州で実施する。また、事前学習として調べ学習を行い、調べた内容をプレゼンテーションする機会（7～9月）を設ける。
  - English Elite Member として英検 2 級以上を取得した生徒に Member の称号を与え、週 1 回 Elite Member の特別レッスンを実施することで英語に対して自信と誇りを持てるようにする。梅花の英語のリーダーとしての活躍を期待するとともに、英検取得のモチベーションの一つとして活用する。

### ③ 教師力向上に向けて

- 安定したより良い教師力を育成するため、PDCA サイクルを構築すると共に、教員研修の有効な実施法を研究し実施する。（ハラスメント、不登校生徒対応、接遇等）
- ICT 教育や e ラーニングに向けて ICT 教育プロジェクトチームを継続する。研究授業を続け、ICT を使った授業展開を多くの教員へ普及させる。
- 教員の自己評価、生徒による授業評価を 1 学期および 3 学期の年 2 回実施する。また、学外者も含めた関係者評価を実施し、その結果を検証することを通して教学の充実を図る。また、結果をホームページ上に公開する。
- 平素の危機管理システムの充実を図り、火災や地震などの災害時の対策として訓練・研修を年 3 回実施し、万が一の緊急時に備える。また、中学では防犯教室を実施する。

### ④ 専攻ごとの特色を活かした特別プログラムの実施（高校）

#### 総合進学専攻

- 宿泊研修（1 年生 5 月）：コミュニケーションキャンプとして仲間づくり、コミュニケーション力向上をめざしたプログラムを実施する。（滋賀県高島市）
- 総合学習の時間を利用し「生け花」「茶室体験」「着付け」等を実施することにより、日本文化を理解し、礼儀作法を身につける。また、日本語検定を必修受験とし合格に向けた対策講座を実施する。
- 従前よりも、より大学進学を意識した講座や授業改革を行う。

#### 特進 S 専攻

- 勉強合宿：1 年生 3 回、2 年生 2 回の合宿を行い、大学受験に対するモチベーションを高める。
- 長期休暇期間の特別講座：弱点克服やレベルアップを図り、目標の達成をサポートする。
- 大手進学塾「河合塾」と連携し、長期休暇期間に特別講座を実施する。大学受験に対する実践力の向上をめざす。

### 国際教養専攻

- 宿泊研修（1年生5月）：イングリッシュキャンプとして ECC 講師陣を中心に英語オンリーの研修を実施する。（滋賀県高島市）
- 学外の留学生との Global Village Program（異文化協働体験型研修）（1・2年生11月）：校内でコミュニケーション能力向上の実践の場として留学生との研修を実施する。
- 学期留学：ニュージーランドでホームステイをしながら現地校で学ぶ。
- 英語読み聞かせ（3年生3学期）：土曜朝の読書の時間を利用して中学1年生に英語で絵本の読み聞かせを行う。
- Global Village International Preschool と連携しオールイングリッシュの保育体験を行う。

### 医療看護専攻

- 看護学特講において、2年生は年間を通して現役医師から医療看護に関する講義を受講する。また、学期に2回程度医療の専門職講師による特別講座を実施する。3年生では梅花女子大学茨木エレガンスキャンパスにおいて高大連携の講義・実習を受講する。
- 普通救命講習受講（1年生7月）：豊中市消防局から講師を招聘して豊中キャンパスにて受講する。
- オリジナルの実習ノートを作成し、記録を取る習慣を身につけるとともに、文章表現力を養う。

### こども保育専攻

- 梅花幼稚園での保育体験：平常時の保育以外に遠足、夏祭り、バザー、クリスマス会等の行事に参加して保育の現場を学ぶ。
- 1年生は近隣幼稚園で、2年生は近隣保育園でのそれぞれ3日間の保育実習を実施し、将来の仕事に対する意識を高める。
- ピアノ発表会（全学年）：音楽室・円形講堂にてレッスンの成果を披露する場を設ける。
- 実習ノートを梅花オリジナルで作成し、記録を取る習慣を身につけるとともに、文章表現力を養う。
- Global Village International Preschool と連携しオールイングリッシュの保育体験を行う。

### 舞台芸術専攻

- 四季劇場や梅田芸術劇場で上演されるミュージカルや宝塚歌劇団の公演など、プロのステージを鑑賞する事で、表現力の向上をめざす。卒業公演等へ向けてのモチベーションの維持を図る。
- 芸術発表会“Dream Fest”を梅田芸術劇場シアタードラマシティにて開催する。コースの取り組みやクラブ活動の発表の場として、一般に広く知ってもらう機会とする。
- 卒業公演：澤山記念講堂にて卒業公演を実施する。卒業生自らが演技のみならず、公演全体をプロデュースすることで、3年間の総まとめを行う。

## 調理・製菓専攻

- 近隣の飲食店でのインターンシップを実施し、職に対して考える機会とする。(希望者)
- 調理製菓スペシャルプログラムとして、ケーニヒスクローネや叶匠壽庵など老舗有名菓子店の出張実習や現地実習を実施する事により、菓子作りや職業に対する認識を高める。
- 料理検定、菓子検定(辻製菓専門学校主催)受験(2・3年生)により、お菓子について知識や興味を高める。
- 食物調理技術検定を受検し、1年生は4級、2年生は2・3級の全員合格を、また、3年生は準1級の合格を目標に掲げ調理技術の向上に努める。

## アートデザイン マンガ・イラスト専攻

- 梅花女子大学や他大学芸術系学部との連携を図り、学期ごとに特別授業を実施する。
- 作品展・卒展の出品に向け、「総合的な探究の時間」や「HR」を利用して、グループでの大型作品の作成や Illustrator や Photoshop を用いたデジタル作品の制作を行う。
- コンクール等に出品し、各自のモチベーションを上げ、生徒の資質向上をめざす。
- 高2の美術特講において年間を通じて高大連携授業を実施する。

## ⑤ シリコンバレーラボの活用

- プログラミング教育の充実を図り、論理的思考力の醸成に努める。シリコンバレーラボでは、昼休み・放課後に情報科の教員が常駐しプログラミングの指導を行う。
- 中学で Pepper IoT チャレンジプログラムに参加し、Pepper と IoT を組み合わせてプログラミングを行うことで、スキルアップを図る。
- 中学の「技術・家庭」高校の「情報」の授業や「リベラルアーツウィーク」においてプログラミングの授業を行い基本的なプログラミングのスキルを習得する。

## ⑥ 修学旅行の充実

- 高校ではコロナ禍により海外コースは中止し、北海道コースを代替えとする。国内コースは沖縄とするが、コロナ禍により実施できない場合は、北海道コースを代替えコースとする。
- 中学でもコロナ禍により海外コースは中止し、九州コースを代替えとする。梅花独自のプログラムを実施し満足度向上をめざす。

## ⑦ 中学総合学習等での取り組み

各学年で調べ学習を中心に行い、情報を収集・整理し発表することで生きる力を養う。また、全学年でマナー講座を受講することで、梅花の品位を体現できる生徒育成をめざす。さらに、全学年歌劇鑑賞会(年2回)を実施することで情操教育の一環とする。

## ⑧ 高大連携の充実(Liberal Arts @ BAIKA)

梅花独自の魅力ある授業をめざし、梅花女子大学との高大連携授業科目の充実を図る。

- 高校2年生高大連携選択科目:「Web制作」・「造形デザイン」
- 高校3年生高大連携選択科目:「心理学入門」
- 高校2年生「看護特講」「調理・製菓特講」を学期に1回程度、高校3年生「看護特

講」通年の授業を茨木エレガンスキャンパスにて実施する。

- ・高校2年生「食育入門」「保育特講」、高校3年生「食品衛生学」「保育特講」の授業を豊中キャンパスで通年実施する。

⑨ 芸術作品展・卒展の実施

グランフロント大阪北館アクティブスタジオにおいて、8月に芸術選択授業・高大連携授業・クラブ活動で創作した作品を展覧する「芸術作品展」を実施する。また、1月に卒業生を中心とした生徒の美術や書道など作品の展覧会「卒展」を開催する。これにより、生徒の情操教育・感性の向上をめざし、モチベーションを保つと共に、梅花ブランド力を広く一般にアピールする。

⑩ 校外チャリティイベント & 入試説明会の実施

1 day、2 day キャンパス、および、うめコレ 梅花エレガンスコレクションと学校説明会を組み合わせ開催する事により、出演者のモチベーションの持続や成長を期待すると共に、広報面においても勢いのある「梅花」をアピールしていく。

⑪ 中学・高校第10回山川登美子短歌文学賞の実施

中学・高校在校生を対象とした山川登美子短歌文学賞を継続実施する。短歌教育により言葉の感性を磨き、美しい日本語を考える機会とする。また、この短歌文学賞を通し、明星派の歌人、山川登美子の文学的業績を顕彰する。

⑫ 不登校生への対応強化

高校の不登校生徒を対象に「北館教室」を継続し、保護者と担任、カウンセラーと連携して生徒一人ひとりが登校や進級に対して意欲的に取り組める環境づくりを行う。

⑬ 新体操部の充実

新体操部に学内外のイベント参加してもらうことでより梅花ブランドのさらなる充実を図る。クラブ活動だけにとどまらず 2020 年度に開設した「梅花新体操スクール」との連携により選手育成に力を入れる。

⑭ 制服の改定

より魅力的な制服にするため、中学・高校の夏制服を改定する。また、新たにパンツスタイルを導入し制服の選択肢を増やす。

### (3) 幼稚園

教職員の保育力を高め、園児・保護者をはじめ地域社会からの信頼を強固なものにするため、教育研究や諸施策の充実を図る。また、併設の各学校や地域社会との連携強化により、幼稚園としての機能をより一層高めるなど総合力の向上を図る。

① 教師の保育力向上

キリスト教精神に基づく本園の教育理念に対する各教師の理解を深め、保育力の向上のため

めに外部講師を保育アドバイザーとして招聘し、園内研究会の充実を図ると共に、教員間のコミュニケーションをしっかりと取り、自立したクラス運営が出来るよう人的環境の充実に努める。また「幼児教育の目的は人間形成の基礎を作ることである」ということを見失わず、さらなる質の高い教育を提供していけるよう、各機関の研修会へも積極的に参加する。

## ② 保育関係者間の連携強化

女子大学こども教育学科と連携を取って、本園の幼児教育観を充分学生に伝え、幼児教育に対する知識を深めさせるよう配慮し、両者の共通理解を図る。また、高校の「こども保育専攻」との連携を図り、実際の幼児教育現場での実習を通して生徒が保育に対する知識を高め、幼児教育への興味や意欲をもてるよう本園の保育の充実と向上に努める。

## ③ 子育て支援の強化

前年度に引き続き、預かり保育の時間延長を継続し、夏休み・春休み期間中にも預かり保育を実施する。また、月一回のキンダーカウンセリング等の専門分野からの子どもの発達や保護者の育児などの支援を充実させ、本園のみならず広く地域親子の子育て支援にも貢献する。

## ④ 危機管理体制の強化

安全で事故のない教育環境を保障するために、防犯教室や防災訓練等を実施し、危機管理体制の一層の充実を図る。また新型コロナウイルス感染拡大防止対策も引き続き強化すると共に、保育室内や園庭、園バス車内における園児の安全への危機管理にも、より一層の注意を払い、保護者が安心して本園に園児を通わせられるよう信頼関係の維持に努める。

## 2. 学生・生徒・園児の受け入れ

### (1) 大学

#### ① 大学および学部・学科のセールスポイントの訴求

「チャレンジ&エレガンス」を人材育成のローガンに掲げ、2024年度から大きく学びの内容が変わることを最大のセールスポイントとする。内容としては全学科で「主専攻」「副専攻」を置き、主専攻では各分野の専門的な知識や技術、副専攻では女性の生涯に役立つ+α資格取得をめざす。教養科目と主専攻・副専攻からなる「学びの一元化」を通して、ワンランク上のキャリアをめざす学びへと進化させ「仕事力ある真におしゃれな女性の育成」に一点集中した広報展開で他大学との差別化を図る。さらに今年は創立145周年にあたるため、昨年度に引き続き145周年ロゴマークをすべての広報物に使用し、広報展開を行う。

#### ② パンフレット

大学案内を、他に類をみない個性的な女子大学として他大学との差別化を図り、一層のエレガンス感とおしゃれ感を出すデザインとする。加えて梅花女子大学の特長と魅力を受験生に写真を中心に説明せずに伝えることをめざす。また、様々な切り口から特集パンフレットを作成し、大学案内の内容を補完する。さらに「梅花エクスプレス」をはじめデジタル化しWeb上でも展開する。

③ ホームページの展開

受験生をはじめとする閲覧者の動向マーケティングを行い、ビジュアルを重視しつつ、コンテンツを能動的に展開する。また、Web 広告やスマートフォン対応にも注力し、さらには SNS との連動により動画も駆使しながらさらなる拡散効果を図っていく。

④ 卒業生との連携

卒業生対象のランディングページをホームページ内に新設したことにより、卒業生には様々な情報を発信し、繋がりを強化する。母校からの情報を卒業生がダイレクトに受け取ることができる直接的関係性をさらに強める。そのことにより、梅花ファミリーとしての連携を深める。

⑤ マス広告の展開

マス広告は、昨年度にリニューアルした新バージョンのテレビ CM を中心に学園全体のブランディング広告として発信を行う。放映地域は近畿および岡山・高松地域での認知度アップとオープンキャンパスへの誘導さらには志願者増を狙い、6 月までの早期オープンキャンパス実施前と入学試験実施前に放映する。また、Web 広告との連動を図るとともに適宜交通広告も実施する。

⑥ 進学相談会への参加

直接受験生と面談し、直に本学の内容や魅力を PR することができる進学相談会・高校内説明会には地元を中心に積極的に参加する。また、高校内説明会において模擬授業や学問分野説明などには教員派遣を行う。さらに地方戦略の一環として、地方での進学相談会にも参加し、その際はその地域の高校訪問を中心とした広報展開を行う。参加にあたっては大学の紹介および相談会後のオープンキャンパスへの参加促進に注力する。

⑦ DM を中心とした受験生へのダイレクトな広報展開

DM 戦略についてもマス広告と同様に早期より直接多くの受験生と、さらにその保護者へもアプローチし接触回数を増やす。受験生の志望校選択が年々早まりつつあるため、高校 2 年生の 12 月頃よりアプローチを試み、今年は昨年よりも強化し、年間 14 本の DM を前半に計画している。後半の DM 実施に関しては、過去の資料請求者のデータを分析する機械学習を活用した「AI 出願予測システム」を導入しているため地域、志望分野、学年さらには個別受験生の出願予測が可能であることを生かしたより詳細なセグメントを行い、対象者を絞り込みながら個々の対象者により効果的と思われる本学の情報を確実に伝達する。なお、早期より実施する DM は主として大学のブランドイメージの訴求やオープンキャンパスへの誘導を目的とし、後半は入学試験への出願促進を目的とした DM とする。

⑧ 高等学校との連携強化

高校訪問については、北摂地域や近畿圏内の高校を対象とし、本学への通学が可能な地域の高校に対しては特に重点的に複数回の訪問を行う。さらに、入学実績校からの入学者数の安定化を図るため、連携協定をはじめとした親密な関係を築くよう働きかける。また、併設高校である梅花高校については、「梅花女子大学インフォメーションデスク」を中心に生徒、保護者、教員に対して梅花高校内で行う本学のイベントや情報を発信し、大学への質問や相談に応じることができる体制を一層充実させる。また、現在の梅花高校との高大連携は一部の学科に限定されているが、今年はその学科を増やしてより強固な高大連携を実施する。教員には大学の動きなどに関する情報、入試制度、偏差値情報などを積極的に共有する機会を持ってさらなる連携を深める。保護者に対しては高校内において本学を紹介する機会を設け、本学の魅力を十分に伝え、学内推薦入学への受験促進を行う。その上、高等学校に対しては個別高等学校単位での「大学見学会」を実施

すべく働きかける。校長先生などへのトップセールスも強化して実施する。

⑨ 塾・予備校との関係強化

塾・予備校に関しては、エリアを限定して訪問を重ね、近隣地域での地盤を固める。個人塾には、基本的な大学情報等を提供するなど「相手に歓迎される訪問」を行う。今年も昨年好評であった塾の教員を対象とした入試説明会を昨年よりも強化して3回開催し、塾との連携を拡大させる。

⑩ オープンキャンパス

本学の魅力を最大限に伝えることができる機会と捉え、4月以降12月までの間、毎月1回の頻度で8月のみ3回、および翌年3月の年間合計10回のオープンキャンパスを実施する。年々進路を早期に決める受験生が増えている状況を踏まえ、6月実施までの早期のオープンキャンパスに多数来校してもらえようDM発送もオープンキャンパス実施前に併せて行う。より多くの高校生に来校してもらうため、6月に開催のオープンキャンパスおよび7月には祝日授業日を利用した大学のイベント「ゆかた祭り」とコラボし、当日開講されている授業が自由に見学できる日を設ける。またどちらも夏祭りに縁日風の出店なども用意し、さらに浴衣の着付けなども可能にして来校した高校生も楽しく過ごせるスペシャルイベントとする。オープンキャンパス来場者の出願率を伸ばす施策（内容充実、イベント性を高める、広報スタッフをエレガンスキャストと改名し接遇においても特別な大学をめざす）などを実施する。また積極的に学外に出かけて本学の魅力をPRするための学外イベント（2dayキャンパス、エメラルドパフォーマンス、うめコレなど）をエキスポシティやグランフロント大阪において実施する。このイベントは、梅花中学校・高等学校と共催することで、オール梅花としてのブランド力向上を図る。また、地方からの来場促進のため、8月には岡山と香川および和歌山からさらに、翌年3月の春のオープンキャンパスにおいては香川からの無料バスツアーを実施する。

(2) 中学校・高等学校

① 2025年度高校改組の取り組み

2025年度高校入学生から新たなコース編成を実施するにあたり、カリキュラムや行事等の見直しを行い魅力ある梅花独自のプログラムを構築することで生徒・保護者の満足度向上を図る。実施のための準備活動を行うと同時に、新しく魅力的になることの告知広報に力を入れる。

・特進専攻の刷新 / 2年生からのコース選択 / 探求活動の充実

② 入試広報体制の強化

塾・公立中学校への訪問については、法人企画部との連携を強化し、合理的な計画を策定する。特に近隣の徒歩・自転車通学圏内からの志願者増を図るために、大手塾だけでなく、近隣の中小の塾についても関係強化を図り、信頼関係を築く。

③ 募集対策行事の充実

校内での高校入試行事は「オープンキャンパス」6回、「入試説明会」3回の年9回を、中学入試行事は「オープンキャンパス」6回、「プレテスト」3回の年9回を実施する。さらに校外での行事として「ナイト説明会」や「うめコレ」、「1dayキャンパス」等のイベントをグランフロント大阪北館・ナレッジプラザで実施する。

校内での入試行事では、専属アシスタントとして活動する生徒を募り、本校のアピール

を強化する。

④ 塾対象説明会

ホテル阪急インターナショナルにて6月に1回、校内にて7月に1回、9月に2回の年4回の実施とする。塾の先生方の利便性を図ると共に、梅花の教育の広報とブランド力向上をめざす。

⑤ ホームページの充実

学園全体の統一イメージに沿ってホームページを更新する。常に新しい情報が提供できるように更新の頻度を上げ充実を図る。また、スマートフォン対応への充実を図る。さらに、常に閲覧者の分析を行い、効果的なホームページ運用をめざす。

⑥ Web 広告および公式ツイッターの実施

パソコンやスマートフォンの普及を鑑み、法人企画部が作成するWeb 広告・公式ツイッターを用いることで、本校ホームページへ導き注目度アップを図る。

⑦ スクールバスの運行

豊中キャンパス―少路駅間にスクールバスを臨機応変に運行し、大阪モノレール沿線および少路駅周辺地域の生徒募集を強化する。

⑧ 小学生対象プログラムの充実

- ・第12回小学生英語暗唱大会「BAIKA CUP」の実施  
英語教育に対するイメージアップおよび入学者の確保に努める。
- ・こどもミュージカルレッスンの継続  
2016年度から開講している小学4～6年生対象のこどもミュージカルレッスンを実施する。
- ・キッズレイダースの継続  
小学3～6年生の児童を募集し、チアリーディングを通して梅花の良さをアピールする。
- ・Kids English の継続  
2018年度から開講している小学4～6年生対象のKids English を3クラス編成で実施する。  
参加を有料化し、より行き届いた質の高いレッスンを提供する。
- ・新体操スクールの充実  
新体操部を強化することで梅花ブランドのさらなる充実を図る。クラブ活動だけにとどまらず「梅花新体操スクール」と連携することで選手の育成に力を入れる。
- ・プログラミングキャンプの実施  
シリコンバレーラボを利用して、コンピュータやプログラミングなどに興味関心を持っていただくとともに、論理的思考力育成のための特色ある教育をアピールする。

(3) 幼稚園

① ホームページによる積極的な広報活動

ホームページを通して日常の保育の様子とその内容や特色を十分に広報し、保護者が本園の教育方針に対する理解を深め、入園意欲を高めるよう努める。また、高校こども保



育専攻との連携活動の内容もホームページを通して広報し、総合学園としての特徴を積極的にPRしていく。

#### ② 自己点検・自己評価活動の実施と広報展開

本園独自の教育の具体的な保育内容や、子育て支援および預かり保育等の取り組みについて、日常的な自己点検・自己評価活動を行い、その結果の公表等に積極的に取り組みながら教育の充実と改善に努める。この活動を通して保護者や地域住民の本園の特長についての理解促進をねらい積極的な情報提供を行う。

#### ③ 未就園児教室の充実

次年度に3年保育入園対象となる未就園児親子が活動に満足し、入園に向けて意欲的になれるよう園教員と未就園児教室スタッフとがしっかり連携をとり、充実した教室運営を図る。登園時間の見直しを行い、教室に通いやすい時間帯の設定を行う。未就園児対象の体操教室や園庭開放の充実を図り、本園在籍の未就園児親子のみならず地域にも広くPRをして、未就園児教室への入会、さらには年少組への入園に繋がる取り組みを強化していく。

#### ④ 課外活動の充実

外部から専門講師を招聘し、「音楽リズム」、「英語」、「絵画造形」、「体操」、「剣道」の各活動により一層の充実を図る。また、学園の公式クラブとしてのチアリーディングや女子大学児童文学科のOGの指導による「こうめ文庫」（絵本活動）においても本園独自の取り組みとして広報を強化し、保護者の入園意識へとつながるよう努める。さらに、降園後のサークル活動については、新規に園舎内での新体操レッスンを追加すると共に兄弟姉妹関係の入園につながる卒園児のサークル活動（英会話、書道、バレエ）においても引き続き協力体制を維持する。

### 3. 財政健全化への取組み

少子高齢化が急速に進む日本社会において、私立学校を取り巻く経営環境は年々厳しくなっており、その上長期化する新型コロナウイルス感染症および不安定な国際情勢の影響を受け、予断を許さない厳しい状況が継続すると予想される。その一方で、社会からは各学校に対し、高い教育力と社会に有用な人材の養成が求められている。

私立の教育機関としての使命は、これに応えるべく、建学の精神に基づき、常に教学面での改革を推進し、学生・生徒・園児に満足度の高い教育を提供することである。

そのためには、財政基盤の確立と安定が前提となる事から、2023年度も、教育活動資金収支および経常収支において、収支均衡を第一に掲げる。従って、学校法人梅花学園は、大学・中学校・高等学校・幼稚園とも独立採算を見据えた予算編成を行った上で、学園全体の総合経営を行うこととする。

#### 【2023年度予算編成方針】

- ① 財政基盤の確立と安定を図るため、活動区分資金収支計算書における教育活動資金収支差額および事業活動収支計算書における経常収支差額を収支均衡とし、大学・中学校・高等学校・幼稚園とも独立採算を見据えた予算編成を行う。

- ② 学生・生徒・園児数の増減によるもの等を除き、2022年度の配分基準額を上限としたゼロシーリング予算を基本とする。
- ③ 収入面においては、各学校とも定員の充足を前提とする。
- ④ 各種補助金や寄附金等、外部資金の獲得を継続的に進める。
- ⑤ 各学校において、常に事業の見直しと検証を行うことにより、不要の支出を抑制するとともに、費用対効果に見合った事業を実施する。
- ⑥ 施設設備の新設・修繕・更新については、計画に基づき予算計上すると共に、財源の明確化、中長期の施設更新実現のため、減価償却累計額の50%相当額を目標に、毎年一定額を減価償却引当特定資産に組入れることとする。

#### 4. 教育環境の整備

- ① ICT教育機器の整備・充実。
- ② 通学用スクールバスの一部（2台）更新。
- ③ 図書自動貸出システムの導入。
- ④ 花と緑に囲まれた茨木エレガンスキャンパスおよび豊中キャンパスの整備・充実。

以 上

